

英語「猛」学習のすすめ

福田真人（国際言語文化研究科教授）

1. ますます必要な外国語

英語の需要がますます増えています。それは、日々実感されていると思います。学問界であれ、実業界であれ、英語の使用頻度は増すばかりです。

イングランド（England）地方の言語であった英語（English）が、その勢力拡大に伴って、世界の中心的言語になったのには、その政治的・経済的優位が与ったことは間違いない。

大英帝国が七つの海を支配し、やがてその植民地がアメリカ合衆国、オーストラリア、ニュー・ジーランド、カナダになり、そこでの公用語として用いられ、さらにインドやフィリピン、シンガポール、マレーシア、南アフリカ等でも使用されている。

情報化時代に不可欠なインターネットで見れば、その使用言語の 28.6%が英語であるという。（ちなみに第二位は中国語 23.2%、日本語は第六位で約 4%！）空飛ぶパイロットとなると、地上とのあるいは飛行機同士での交信は英語と決まっている。

今後の通商・貿易において、英語が共通語となる可能性は非常に高い。各国に固有の言語、あるいは公用語がある今日、英語がすべてを包みこむことは望ましいことではないが、共通語があれば互いのコミュニケーションは確かに取りやすい。コミュニケーションの手段としての英語はますます重要な位置を占めるようになるだろう。

2. 授業の特色

英語は、大まかにいって言語文化 I、II、III の 3 つに分かれています。

多くの学生にとって、言文 I の必修科目の英語を履修することで卒業に必要な英語の単位を取得することができます。言文 I は、1 年生で「英語（基礎）」・「英語（中級）」・「英語（コミュニケーション）」があり、2 年生で、「英語（上級）」と「英語（セミナー）」があります。（学部によっては若干違いがあります。）

言文 II は、高次の英語を修得すべく、「特別英語セミナー」を開講しています。履修するためには英語検定試験（TOEIC 等）の得点による受講制限があるので注意してください。

言文 III は、短期海外語学研修で、出発前の研修と帰国後の報告を含めて履修するようになっています。

しかし、これらすべての授業よりも越えた英語の実力と経験を持っている人は、その才能をもっと他の事、研究で伸ばして貰おうと、英語検定試験制度を導入しました。学部によって扱いが違いますが、当該学部で、この制度のある人は、是非検討してみてください。

3. 英語の学習+もうひとつの外国語への挑戦！

しかし、これらすべての授業を受けても、英語を習得するには完全ではありません。自宅

学習、自己学習が最後の鍵です。興味を持ち続けて、ラジオ、TV、DVD、などを自在に活用して、さらに幅広く学習して下さい。映画はすべて英語音声で観るのも非常にいい訓練になります。

なによりも赤ちゃんの気持ちになって、言葉のシャワーを浴びる覚悟が必要です。まず、ニュース番組が何よりもいいでしょう。速読なので、最初は皆目分からなくてもいいのです。その内、必ず聴き取れるようになるものです。音楽でも、映画でもTVでもいいのです。また、音楽の詩を諷んじるのだっていい勉強方法です。料理本を見て、実際に料理してみるのもいい訓練になります。旅行のガイドブックだって、大変すぐれた教師です。

そして、第二、第三外国語にぜひ挑戦して下さい。どんな言葉でもいいのです、英語を通してでもいいのです。アジアの言葉もこれからますます重要になります。中国語、朝鮮韓国語、ヒンズー語等々。すると世界がぐんと広がります。それこそ、教養の涵養に役立ちます。文化理解に資すること間違い無しです。

会話や文通を通して、**email** を通して互いに理解ができた時の喜びは、なにものにも代え難いものです。ぜひ、言葉の海へ漕ぎ出してみてください。